

開催地名：大分県臼杵市	
開催日時	令和3年12月4日（土） 13:00～14:30
開催場所	臼杵市民会館
語り部	草貴子 （宮城県仙台市）
参加者	臼杵市防災士会、地域振興協議会（市内18地域）500人
開催経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を継続的に実施している自主防災組織は多いが、ほとんどが沿岸部の地域であり、山間部の地域との間に防災意識の乖離がある。 ・防災訓練が定型化しており、マンネリ化している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、避難所のあり方が大きく変わった。開設運営訓練を行いたいのが3密となるため出来ないジレンマがある。 ・東日本大震災の記憶が薄れてきている or 知らない子どもが増えた。 ・防災訓練を継続的に実施している自主防災組織は多いが、ほとんどが沿岸部の地域であり、山間部の地域との間に防災意識の乖離がある。 ・防災訓練が定型化しており、マンネリ化している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、避難所のあり方が大きく変わった。開設運営訓練を行いたいのが3密となるため出来ないジレンマがある。 ・東日本大震災の記憶が薄れてきている or 知らない子どもが増えた。
内容	<p>(1) 東日本大震災までの生活</p> <p>震災当時、私は宮城県仙台市泉区市名坂に住んでおり、町内会を運営。仙台市泉区は、人口21万5千人の政令都市仙台の副都心である。私の住む泉区は内陸部であったため、東日本大震災において津波の被害はなかった。</p> <p>市名坂東町内会は仙台市の泉区東部に平成20年設立。働き盛りの40代、50代または単身赴任の家庭が多い中で、女性が立ち上がり作り上げた。役員9名は全員女性であること、集会所設立のために銀行ローンを組んだということは仙台市初の試みだった。地区の指定避難場所は町内から2km離れた小学校であるため、平成22年に完成した集会所は最初から緊急時の避難場所として防災を強く意識し、オール電化の導入、収納の高さを女性の腰に合わせる、トイレを2箇所設置するなど工夫を凝らした。</p> <p>(2) 震災時の状況と対応</p> <p>3月11日2時46分、近所の電気店で買い物中、地震に見舞われた。立ってられないほどの強い揺れがあり、ガラスの割れる音、人の悲鳴、天井が落ちる中、夢中で外に出た。建物も電柱も倒れそうで、車は上下に動い</p>

	<p>た。自宅に帰る途中、集会所近くの公園にぞろぞろ人が集まっていた。集会所を開けると、女性・子ども約 100 人が避難していた。</p> <p>まず、4 名の役員で話をした。避難者の大半は町内会に入会していないマンション住民だったが、全員受け入れることにした。避難者の中からリーダー・副リーダーを決めて、町内会はサポートする形で運営に入った。約 10 日間の共同生活では人間の様々な一面を見た。思いがけない嬉しい言葉をかけてくれる人もいる一方、自分の権利ばかり主張する人もいる。集団生活の中で一番怖いのは、些細なことで人の心や築き上げてきた関係性が壊れてしまうこと。どんな災害よりも、非常時に垣間見る本来の人間性が一番怖いのではないか。様々な思想や宗教を持った方々との生活も、考えさせられることが多かった。</p> <p>(3) 震災を通して感じたこと</p> <p>町内会では平成 23 年 11 月から未就学児を持つ若い母子を対象に子育て支援を開始。平成 24 年 4 月には町内会として全国おもちゃ図書館に申請し、おもちゃ図書館ずんだっ子が誕生した。災害時に備えたまちづくりに関しては、毎年 1 回あるお祭りで防災訓練を開催している。煙を炊いての濃煙体験、防災減災に関するクイズや消火訓練を実施。お祭りの収益金の一部を津波遺児に寄付している。</p> <p>行政にできることは限られているので、避難所の運営など私たちが考えなければならない。地域防災で大事なことは、自分自身の特性を考えて、オリジナリティのある身の丈に合ったことを実践することだと思う。また、逃げることも避難所のお世話も、防災・減災を考えるにしても、健康な体がないでは何もできないということ。足腰を鍛えて、元気な体で邁進していただきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>様々な人の視点で考えることが、より良い防災対策に繋がっていくのではないかと感じた。自分にできることは何かを考え、当事者意識を持って日頃の防災活動に取り組んでいきたい。</p>